

令和7年度学校評価報告書

令和8年3月24日

北海道教育委員会教育長 様

北海道伊達開来高等学校長 藤 村 学 印

次のとおり令和7年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

- 教職員の共通認識と協働体制の下
- (1) 生徒一人ひとりの学力を向上させる授業の充実
 - (2) 系統だった計画に基づく探究的な学習活動の充実
 - (3) 生徒一人ひとりの進路を実現するキャリア教育の充実
 - (4) 生徒一人ひとりに生きる力を育む生徒支援の充実
 - (5) 地域の期待に応える教育活動の充実

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
教育課程・学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・観点別評価に関する基準の改善や工夫が今後必要である。 ・「総合的な探究の時間」や「だて学」では、先生方の複合的な視点を活用した学習を進めることができた。 	<p>○概ね適切に評価・改善を進めていると思います。生徒それぞれに学力・状況が違う中で目標に沿った指導ができています。学力向上に向け、積極的にとりくんでいることがわかる。</p>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体で重点的に育成する資質能力を学校教育目標と照らして確認し、授業改善、観点別評価基準の改善・工夫を進め、学習意欲の向上と家庭学習の習慣を定着化させる。 	
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・身だしなみや貴重品管理については指導の統一化が必要である。 ・不登校生徒や教育相談については、委員会やSC・PTとの連携により共有でき、早期に情報共有・組織的な対応ができた。 	<p>○基本的生活習慣の確立意義を教員間で統一し、継続的に行い、相互信頼に基づく環境を整えてほしい。</p>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・情報共有を基に、組織的に取組み、早期発見・改善にむけて継続した指導を実施する。また外部機関との連携を密にして、指導の充実を図る。 	
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・適宜、説明会の実施や必要に応じた面談等を複数回実施することができた。 ・進路講習等の機会を増やしたことが成績上昇や進路結果につながった。 ・奨学金申請変更による研修が必要。 	<p>○今年度の進学・進路先が広がってきている。適切な情報収集と生徒、保護者との情報共有と指導を今後も深めてほしい。また地元大学との連携を強化してほしい。</p>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・早期から進路意識や目標設定を推進し、生徒や保護者の進路に対する視野を広げる活動をバックアップする体制を構築する。 	
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事において、生徒の主体性や自主性を重んじた行事運営ができたが各委員会の充実を図る必要がある。 	<p>○学校行事や部活動は協調性や共感性を育む絶好の機会ではあるが、教職員数や生徒数の減少により「数」の厳選も必要である。</p>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・行事の内容や日程を検討し、安全かつ充実したものになるよう計画する。 ・働き方改革を視野に入れた部活動数や複数顧問の再考を図る。 	
組織運営	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会による情報共有や学校課題の明確化を図り、貴重な意見を収集することができた。 ・HPやnoteによる教育活動などの情報発信は効果的だった。 	<p>○地域連携は十分に実施できている。総合的な探究授業やだて学のさらなる充実に期待したい。</p>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的数値目標を掲げたり、よりタイムリーな情報発信を図る。 	
公表方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページ、学校運営協議会 	